

## 2026年6月米雇用統計

## &lt;米6月雇用統計概要&gt;

- ・米6月雇用統計における非農業部門雇用者数は、前月比+57千人と市場予想の+113千人を大きく下回った。また、過去2カ月分についても、4月分は+179千人から+148千人、5月分は+172千人から+129千人と合計74千人下方修正された。
- ・内訳をみると、レジャー・宿泊の雇用者数の大幅な減少が全体の押し下げ要因となった。同項目は、前月にワールドカップ開催に向けた雇用増が指摘されていたが、雇用の一巡による反動が出たとみられる。また、公表元の米労働統計局は、「季節的な採用が例年よりも弱かったことを反映している」と指摘している。
- ・失業率については、4.2%と前月の4.3%から低下した。しかし、内容をみると労働力人口が720千人減少したことによる労働参加率の低下が主因であることから、統計の見方には注意が必要である。
- ・平均時給については、前月比+0.3%、前年比+3.5%と市場予想と一致し、賃金の伸びは落ち着いた状況が続いていることが示された。
- ・総じてみると、非農業部門雇用者数が大幅に減少し、失業率の低下についても労働参加率の低下を主因とするなど、やや弱めと受け止められる結果となった。もっとも、雇用者数増のペースは鈍化したものの、3カ月平均の雇用者数は+111千人と、基調としては底堅さを維持している。

## &lt;米6月雇用統計結果&gt;

主要項目	5月分	6月分	市場予想(6月分)
非農業部門雇用者数(千人)	129(修正前:172)	57	113
失業率(%)	4.3	4.2	4.3
労働参加率(%)	61.8	61.5	61.8
平均時給(前月比)(%)	0.3	0.3	0.3
平均時給(前年比)(%)	3.4	3.5	3.5

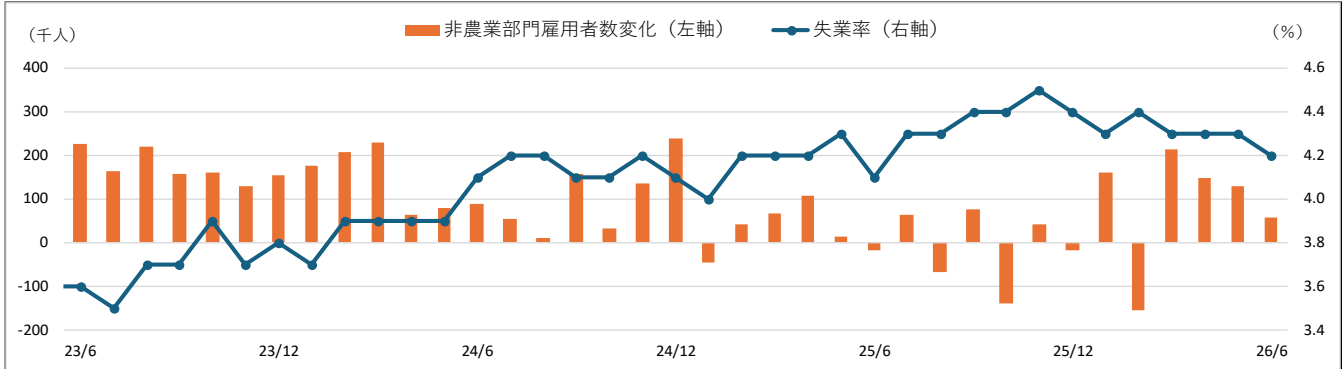
## 【米雇用統計について】

- 米雇用統計とは、米雇用者の情勢(失業者数や就業者数など)を調査した統計で、最も重要な経済指標の一つ。原則として調査翌月の第1金曜日に発表される(今回は翌日の米市場休場の関係で木曜日に公表)。指標は十数項目あるが、特に「失業率」と「非農業部門雇用者数」が注目されている。
- FRBは、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標として掲げており、金融政策の動向を見極めるうえで「米雇用統計」は重要視される。

## &lt;項目別の雇用者数増加幅(単位:千人)&gt;

項目	前回結果	今回結果	項目	前回結果	今回結果
鉱業・木材伐採	3	▲4	専門・事業サービス	11	36
建設	6	11	教育・ヘルスケア	45	69
製造	▲2	3	レジャー・宿泊	40	▲61
貿易・運輸・公益事業	17	▲4	政府	3	8
情報	▲4	▲9	その他サービス	32	8
金融	▲22	0			

## &lt;米雇用統計チャート&gt;

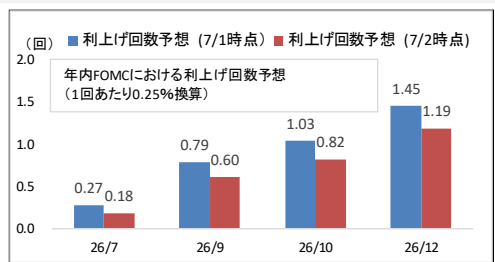


## &lt;今回のポイント&gt;

- ・6月FOMCにおいて、ウォーシュ議長がインフレの抑制に向けた強い姿勢を示したことで米利上げ観測が高まっていたが、7月1日のECBフォーラムにおける同氏の「ここ数週間で、インフレリスクは低下した」との発言や今回の雇用統計の市場予想下振れを受けて利上げ観測は後退している。
- ・FF金利先物市場における2026年末までの利上げ回数予想は、雇用統計公表前の1.45回から公表後は1.19回となった。

## &lt;市場動向&gt;

	7月1日	7月2日	前日比
ドル/円相場(円)	162.58	161.11	▲ 1.47
ダウ平均株価(ドル)	52,305.24	52,900.07	594.83
S&P500指数(ポイント)	7,483.23	7,483.24	0.01
NASDAQ総合指数(ポイント)	26,040.03	25,832.67	▲ 207.36
米2年国債利回り(%)	4.174	4.137	▲ 0.037
米10年国債利回り(%)	4.479	4.483	+0.004



※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。